

電気通信大学 平成19年度シラバス

授業科目名	生命情報科学		
英文授業科目名	Bioinformatic Science		
開講年度	2007年度	開講年次	3年次
開講学期	後学期	開講コース・課程	夜間主コース
授業の方法		単位数	2
科目区分	専門科目-学科専門科目-選択科目		
開講学科・専攻	量子・物質工学科		
担当教官名	中村 整		
居室	東6 - 636		

公開E-Mail	授業関連Webページ
tad @ pc.uec.ac.jp	

【主題および達成目標】
<p>生体において、情報の受容や処理は神経細胞が担当しているが、化学的過程であり電気的過程である。そのメカニズムは細胞や分子のミクロなレベルでずいぶん明らかになってきた。それらのメカニズムは直接的な利用も考えられるし、新しいシステムを考えるアイデアの源泉ともなり、今後その重要さが増すとされている。脳神経系がコンピューターの究極のモデルとされるのは良く知られたところであろう。本講義ではこのような神経の作動メカニズムを、その解明に用いられた実験法などと一緒に学習する。</p>

【前もって履修しておくべき科目】
基礎生物学

【前もって履修しておくことが望ましい科目】
もし余裕があれば、昼間コースの細胞生物学、生物化学など。

【教科書等】
<p>教科書：小林春雄ら著 神経情報生物学入門 オーム社 参考書：アルパート等著、中村等訳：「エッセンシャル細胞生物学」南江堂の脳神経系の章。</p>

【授業内容とその進め方】

脳神経系の機能を主に細胞レベルで学習する。講義はおおよそ以下の順序で、おおよそ教科書に沿って解説する形をとる。ネルンストの式を用いた生物電気の説明をはじめ、神経システムのおおよその動作原理を把握し、文章によって説明できることを目標とする。

- 1) 神経細胞の特徴
- 2) 生体膜の構造
- 3) 膜電位
- 4) 情報伝達
- 5) 感覚受容神経の情報変換
- 6) 遺伝子工学と神経科学
- 7) 高次神経系の基礎

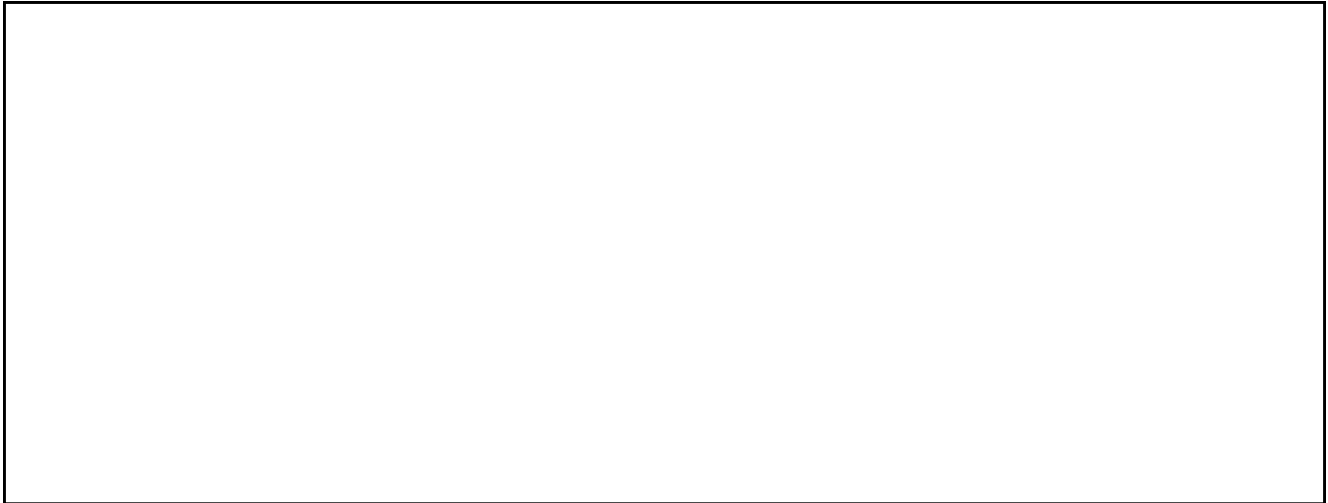
【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

学期末試験(200点満点)と1, 2回の中テスト(毎回100点満点)を行う。また、講義中の適切な質問や、講師の問いに対する適切な応答をした場合には毎回10点以下の配点をする。これらの総合(単純合計ではなく、期末重視)で決定する。可以上の評価を得るには上記合計で満点の50%以上を想定している。

出席状況によりさらに修正を加える場合がある。

【オフィスアワー：授業相談】

適宜相談に応じる。無駄足を踏まないためにはメールなどで事前にアポイントを取ってほしい。



【学生へのメッセージ】

神経系を考えることは自分自身を考えることでもあります。その働きのメカニズムはどのようなものかと、多くの方が努力を続けてきました。まだまだわからないことばかりですが、そこには神秘的なものはあまりなく、ただ複雑だからわからないという世界です。これを手の内に収めて、応用に結びつけるのがこの分野の夢でしょう。

工科系の眼からは、研究に使われる装置の仕組みなどに、一層興味が湧くかもしれません。そういう切り口も、生体の研究には重要な役割を果たしてきました。

【その他】

講義では全てを説明する時間が足りず、板書も簡単なメモ程度になりがちです。そのような板書をぼんやりと写すだけでは、試験前に役に立つかどうか怪しいものです。ともかくその場で理解することを目指しましょう。その場で腑に落ちないことがあればさかさず質問をしてください。講義中に「判らない！」とか「聞き取れない！」と発言することは、学生の権利です。理解できなければ、いくらでも食い下がってください。

教科書は熟読してください。授業中には教科書に掲載された図を利用しますが、本文は自習時の拠り所として熟読することを想定しています。